

会 議 録

1 会議名

令和3年度 第2回高田区地域協議会分科会（第1分科会）

2 議題

（1）協議（公開・非公開の別）

①高田区の活性化について（公開）

3 開催日時

令和3年10月4日（月）午後6時30分から午後8時00分まで

4 開催場所

福祉交流プラザ 第1会議室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委 員：浦壁澄子、小川善司、高野恒男（副会長）、富田晃、本城文夫（会長）、
松倉康雄、村田秀夫（欠席：小嶋清介、宮崎陽）

・事務局：南部まちづくりセンター 小池係長、五十嵐主任

8 発言の内容（主な発言の要旨）

—次第3協議（1）高田区の活性化について—

【富田座長】

第1回分科会以降、私と小川副座長が各委員（本城会長、高野副会長、小嶋委員、松倉委員）と個別に話し合いを行い、第1回分科会が出た意見の肉付け等を行った。また、前回欠席した宮崎委員より意見のFAXをいただいた。これらを基にまとめた「第二回会議資料」と「高田区の活性化のための活動（地域活動支援事業の活性化に向けて）（案）」を本日配布した。併せて、高野委員が用意した「事例から学ぶ『若者の地域参画 成功の決め手』」、「キナイヤ白書2021」、宮崎委員からのFAX「私

見」を本日配布した。

資料「第二回会議資料」に基づき、これまでの経過、委員から出た意見、意見の分類分け（案）、活動のプロセス（協議の進め方）を説明。

資料「高田区の活性化のための活動（地域活動支援事業の活性化に向けて）（案）」に基づき、当資料は地域活動支援事業の活性化をテーマとした場合の工程案であることを説明。

【高野副会長】

資料「第二回会議資料」にある空き家や空き地の事柄に我々がどう関わっていくのか。我々がやることなのか。

【富田座長】

委員から出た意見を表記している。空き地は資料「第2回会議資料」の2. 提案事項の分類分けにおいて、地域協議会が主体的に活動するかどうかを示す“主体性”では×としている。

【高野副会長】

資料「第二回会議資料」にある青田川灯りの夕べの拡大は、地域の人をお願いしてやるのか。

【富田座長】

青田川灯りの夕べの拡大は、資料「第二回会議資料」の分類分けの“主体性”で×としている。地域の人をお願いして、地域の人が賛同するかどうかだ。

【高野副会長】

地域協議会はやらないから、地域の人をお願いしなくてはならない。

【富田座長】

青田川灯りの夕べの拡大は、地域協議会の主体性はなく、地域協議会による提案であり、地域住民、地域の有志がアクションをおこすもの。地域協議会は「こういうことをやったらどうですか」と提案するだけである。

【高野副会長】

資料「第二回会議資料」にある地域活動支援事業の活性化は、我々が主体になることか。

【富田座長】

資料「高田区の活性化のための活動（地域活動支援事業の活性化に向けて）（案）」のとおり、我々が主体になってできると思う。当資料中、“テーマ選定”は今やっている。“これまでの実態把握”は採択条件の変遷等を調べるといろいろと見えてくるので、そういう実態をみて次の“改善策の提案”に行く。そのひとつが“期末の発表会”（事業主体が活動内容を報告）である。“審議方法”は活性化に向けた審議方法を協議する。“各プロジェクトの活動把握（※プロジェクトとは地域活動支援事業のことをいう。以下、同じ）”は令和4年度に行う。そして、自主的審議事項としてやるのかどうか議論しなくてはならない。また、令和3年度の採択団体、不採択団体との“各プロジェクトとの意見交換会”をやりたい。そして、“各プロジェクトの活動状況の検証”を令和4年度に行う。現場に出かけ、地域協議会が支援できることはないか等意見交換する。地域協議会が主体的に地域活動支援事業をこういうふうにしたいて進めて、令和4年度の方針や審査方法に反映させることがスケジュール的にできると思う。これは私の案で、もっとつめる必要がある。たたき台がないと何も進まないで作成した。各プロジェクトの活動が高田区を盛り上げていると思う。それを更に活性化するにはどうしたらよいかを協議する。令和3年度の20提案団体と意見交換するときは、趣旨をよく伝えないと「不採択となったから話すことはない」と言われてしまうので、納得してもらえるよう話したい。各提案団体はよく考えて提案してくる。それを尊重するのが大事なこと。ただ、ふるい分けするのではなく。

【高野副会長】

地域の活性化は地域活動支援事業が全てではないが、地域活動支援事業にウエイトがかかっている。いかにまちに人に住んでもらうかが前提だと思う。そこが抜けているように思う。人に住んでもらい、人が多くなれば活性化する。

【松倉委員】

第1分科会の話と資料「高田区の活性化のための活動（地域活動支援事業の活性化に向けて）（案）」がどうつながるのかと思った。当資料は地域活動支援事業全般のことだと思う。

【高野副会長】

私も同じように思った。地域活動支援事業は大きなテーマの一部分であって、もっといろいろな活動があると思う。何をもちいて活性化とするのか。一番は住みやすいま

ち、住み続けたいまち、住んでもらうというのが一番大きい。

【富田座長】

上越市地域協議会委員手引きの10頁に地域活動支援事業について、「多くの市民の皆さんが、この制度を活用することにより、自らの発意を行動に移していくことで、「市民主体のまちづくり」がさらに進展することが期待されています」と書いてある。市民主体のまちづくり、これが活性化のひとつではないのか。テーマはいろいろあるが全部やろうとすると議論しかできない。絞り込んで今回はこれでやろうということで提案している。過去、町内会と話して失敗している。事務局から当時の資料をもらった。いろいろテーマがでているが議論だけだ。

【高野副会長】

過去に失敗したから地域活動支援事業に特化してやるということか。

【富田座長】

1年目はそうである。テーマは地域活動支援事業だけでなくいろいろあると思うが、ひとつ成功物語をつくる。これが大事。地域活動支援事業の提案団体が具体的に活動して「これはいける」と思うことが大事。そうすると更にうまくいく。単なる議論だけだと評論家的になる。そうはなりたくない。確かにこれをやって本当に活性化するかは分からない。

【高野副会長】

地域活動支援事業で市民主体のまちづくりと言うが、市民の多くがそれに参加しているのかという話になる。提案団体はがんばっているが、一部の広がりになっている。市民の多くが参加できるようにもっていくことが大事だと思う。地域活動支援事業の内容のレベルアップだけではないと思う。

【富田座長】

例えば、活動発表会を充実させる。どのくらいの人が聞きに来るかわからないが、聞いて「私達もやってみよう」等となればよい。特に若者が来てそうなればよい。

【高野副会長】

前提条件として事業の現場に委員全員で見にいかないといけない。そうしないと議論できない。一部の委員だけで行ってどうのこうのできない。そこをどうするのかということがあると思う。

【富田座長】

そのとおり。一方、参加は任意というのがある。

【高野副会長】

活動している若者と話をすることが大事。資料「第二回会議資料」の活動のプロセスに4ブロックに分けて住民と意見交換するとあるが、誰と話すのか。内容のある話をするなら、それなりの人と話す必要があると思う。

【富田座長】

なかなか難しい。

【高野副会長】

以前は、まずは町内会長と話そうということになった。

【富田座長】

以前の町内会との意見交換で地域協議会が受けた話は、ほとんどやっていないのが実態だ。しかし時間的制約があり、なかなかできないと思う。今年度の地域活動支援事業で若者が提案して不採択となったものがあり、忘れられない。満点の1/2に満たず不採択になった。こういった若者と話してみたい。

【高野副会長】

若者がこれからの時代を支えていく。若者がこれからまちをどういうふうにしていくのか、何をしたいのか、何が足りないのか、といった話を聞ければよいのではないか。

【富田座長】

先の若者はこうすればまちは活性化すると思い、提案してきたと思う。あまり話し合う対象を広げるのはうまくない。

【高野副会長】

対象を広げると、ワーワー言って会をやっただけで終わってしまう。

【富田座長】

本町三丁目に住んでいるが、以前の地域協議会と町内会の意見交換の話は全然伝わってこなかった。もし聞いていたら私は出席したと思う。当時はどういう人をピックアップしたのか。記録を見ると町内会長だけではないようだ。今そんなことを議論してもしょうがないが、どういう人とやることにしたのか。

【高野副会長】

最初は町内会長、役員、女性一人とした。

【富田座長】

役員だったが伝わってこなかった。今回、地域活動支援事業の提案団体と話すときは若者とできるだけ話したいので、その旨を伝えるなどする。

【高野副会長】

以前に町内会と意見交換したときは、町内のあそこが傷んでいる、あの道路が傷んでいるなど町内の話になってしまい、結局何なのかということになった。地域協議会は陳情を受ける団体ではない。

【村田委員】

発言させてほしい。ニュースポーツは大きなポイントになる。地域活動支援事業も大きなポイントになる。そういったものがいくつかあると思う。実際に活動している組織、団体が重要。例えば山の会で登山道を整備しているところもあるだろう。私もアクティブスポーツ協会が運営している場所で登る練習をして、年代を超えて楽しんでいる。これをきっかけに前に意見を出した。アクティブスポーツ協会という、本当に若者たちが自分たちの時間、人生をかけて今、運営しながら大きな施設を夢見ている。それが実現するためには、市全体の機運が盛り上がらないといけない。そういう意味で地域協議会が機運を盛り上げるのも一つの手だてで、励ましというか、そういうことができればよいと思った。市長選挙間近になって、新しいスポーツを盛り上げていこうという政策がチラッと見えた。やはり市がそういう姿勢を持って、或いは市長がそういう姿勢をきちり持って、市の関係団体、実際に日々運営を担っている方々との場を、より技術的なプランづくりということでやってもらうために、そういう方向への提言、或いは話し合いの場面を作る。市への要望書という形でもいい。その話し合いの場面に私らも立ち合わせてもらう等できればと思っている。例えばピアノだとオーレンピアノなんて素晴らしい。オーレンピアノは15分間の枠があり、私も参加している。運営する人、参加する人がいてどんどんと広がっていく。いろんな分野でそういったことは可能だ。高田の活性化で地域協議会がどういう役割を果たすかということで、先ほど言ったような内容を私自身はイメージしている。空き地利用についても、空き地も空き家もいっぱいあって、市で全部関われない。町内

の共同菜園が実現して、お年寄りも子どもも種まき、収穫、草取り等そういうことができればよい。私の夢だ。それを具体化していくためには、やはり町内や地域で主になり動かす。市としても、それに対する援助の施策を予算づけしてもらわないと困る。そういう機運を盛り上げる市の財政サポート、或いは制度的なサポート、今後充実していくための施策について、地域協議会が市に要請する、或いは市民に呼びかけることは様々な形で可能と感じている。

【高野副会長】

今の話も非常にいいと思う。空き家や空き地の事柄について、土地の所有者等そういう所有の問題に地域協議会でどこまで関わるのか。今でも市は家の調査をやっている。町内の方に「出してください」ときている。高田区だけに限って話をしているが、全市的な問題ではないのか等、いろいろなこともあるのではないかと思う。活動している団体があるなら、若い人というか、そういうスポーツをやっている方々も話し合いの中に入れてもらえればよい、そんな感じがする。

【富田座長】

ニュースポーツは非常に面白くて、ある市長候補もアクティブスポーツと言っている。村田委員は機運ということを使った。そういう機運が大事ではないかということで、地域協議会がどう関わっていくか。この前、空き家の関係で戸野目の町家のこうじやでやっている「くらしのシルエット展」に行ったら、空き家を5つも買った人がいた。その一つの空き家にボルタリングの設備を作っている。びっくりした。我々はちょっとできない。彼はそういう夢を持っている。彼らは彼らなりに考えていくのではないかと思う。そういう実際にやられている方がいることを紹介した。あと、清里区において空き家問題で「安心ノート」という取組を検討しているということで、事務局を通じて資料を入手した。崇高な理念が書いてあり、「空き家を作らない、空き家を増やさないために安心ノートを作成した」とあり、町内会に対するアンケート調査や空き家の視察などをされ、その結果、区内の70%の町内会に空き家があり、その空き家のうち20%が適切に管理されていないことがわかったそうである。個人情報もあるが、安心ノートにはいろいろ記入項目があり、各世帯へ配布して元気なうちに書いてもらい備える。今検討中ということで、具体的な取組となっている。

【本城会長】

テーマを絞り込む中で、地域の若い人に集まってもらう。いろいろな活動をしている団体がある。あれもこれもじゃなく、我々が何をできるかというところで、まず高田区の若者の意見を吸い上げる。フリーに住民の意見を聞き出すところから整理をしていけばよいのではないか。空き家、空き地の問題は高田区では大きな課題だが、以前もその議論をやっている。今同じような議論になってるので、的を絞った方がよいのではないか。地域で活動してる若者に呼びかけて1回意見交換をやることからやってみてはどうか。行政がやる部分と我々が自主的審議として整理していく部分といろいろあると思う。スケジュールは長期、中期、短期でよい。

【富田座長】

若者との意見交換をしようというのはわかる。では具体的にどういう若者、各町内の人をどのように集めるのか。若者が入っているプロジェクトがあると思う。そういう人に参加してもらえばイメージがつく。ただ若者ということで20代30代とか広げると収拾がつかないと思う。

【本城会長】

例えば、地域活動支援事業の提案団体、NPOなどいろいろな活動をしている団体の人など。我々が分かる範囲で。或いはお店の関係の人、雁木の問題で研究している人など、そういう若者を我々がリストアップし、広く呼びかける。それは地域活動支援事業の提案の問題にも関わるだろうし、そういう制度を知らない若者もいるだろう。今までの地域活動支援事業は、ベテランでマンネリ化した団体が提案しており、傾向としては、新たに出てきた事業を我々が採点をして落としている。落とされた団体は「何だ、地域活動支援事業というのはどういうことなんだ」とよく理解できていない、そういう団体が多いと思う。そういうことも含めていけば、新年度にこういうことを提案して実践してみても、ということもできるのではないか。いろいろやっている団体の若者ばかりでなくてもよいが、活動をされている方々に呼びかける、リストアップする、そんなことから手掛けて絞り込むとよいのではないか。

【浦壁委員】

資料「第二回会議資料」に具体的なテーマが列挙されているが、これを全部というわけにいかないのでは、とにかく的を絞る。そのテーマによって若者中心にすべきか、或いは地域全体で関わらなくてはいけないかがおのずと出てくると思う。若者に対

象を限定する段階ではないと思う。やはり、地域活性化で町内会の力は協力やいろいろな面で大きな力である。若者は必要だが、やはり町内や地域が主体にならないと効果が出ないと思う。その中に若者を組み入れていく。段階的にテーマを絞ることによって、対象を若者に絞るのか、地域に絞るのかに繋がると思う。資料「高田区の活性化のための活動（地域活動支援事業の活性化に向けて）（案）」の時系列の表の11月に“絞り込み”とある。絞り込みは消去法でいけると思う。地域協議会として関われるものは意外に少ないと思う。今まで提案はしてきたが、それを活動に結びつけることはなかった。11月までに絞り込んで、それから具体的な細かいことを進めていかないと、いつまで経っても同じようなことを繰り返すと思う。

【富田座長】

そのつもりでいる。11月まではフリートーキングである。ただ、浦壁委員の言うことはわかるが、町内会とは例の高田城址公園の件もある。先方から「前回5～6年前に我々と協議したが、その時に伝えた意見の件はどうなっているのか」とつかれたら、そこをまとめる自信はない。議事に出ている。それをまずきっちりしないと、町内会の人達と話す自信はない。「5～6年前にいただいた意見は、こうやって具現化してきた。更に何かないか」と返せるなら言いやすい。しかし、それをやってなく「またやるのか」となる。なので、我々が地域課題を絞って地域と話して「皆さん地域活動支援事業で活性化策をしている。これを更に活性化したい。」、特に若者に「どうしたらいいか」とすれば何か大義名分が立つのではないか。これならまとめやすい。

【本城会長】

町内会の関係は無視するとかではなく、やはり巻き込んでこちらから呼びかけていく努力をしないといけないと思う。結果、出てこれないというのがあれば、それはしょうがない。地域によっては各町内会長も協力的に出てきて、一緒にやろうというところもある。

【富田座長】

無視するわけではない。1年目は地域活動支援事業関係をやり、具体的な成果を出す。そして次の年に町内会に「若者と意見交換してこういうことをやった。今度は町内会のこういう関係の人達を集めてやりたい」と伝える。分科会を1年間で終わるつもりはない。永遠のテーマだと思う。

【本城会長】

そういう団体との意見交換をどういう場面でやっていくかということも考えないといけない。例えば、この地域で開催するのに、地元の町内会は知らなかったということにはなっていないと思う。意見交換に我々が出かけて行ってやる場合、その町内会にも呼びかけをしないと、またそのしこりができる。その辺もある程度配慮しながら、スケジュールを組んでいかないといけないと思う。

【富田座長】

プロジェクトは今回20件提案され、13件が策択されたが、そのプロジェクトは町内会とどういう関係にあるのか教えてほしい。

【本城会長】

地域でまちづくりをしている団体は、地域と全く関係なくやっているわけではなく、地域からある程度力を借りなければできない。いろいろ予算取りしているが、実行団体は町内会の協力がなければ、なかなか思うようにいかないと思う。やはりそういう共同活動がなく、独り歩きになっても困る。

【富田座長】

地域活動支援事業にこだわるわけではないが、以前の町内会との第1回懇談会の概要をみると地域活動支援事業についていろいろ議論している。第2回懇談会ではまたテーマが違っている。

【浦壁委員】

過去のいきさつにこだわるのは活動していく上であまりよくないと思う。目標は地域の活性化である。地域の活性化に向けて、みんなで力を合わせる。そうなれば町内会は地域住民で動いているので、その賛同がなければ何もできない。

【富田座長】

そういう考え方はある。

【高野副会長】

最初に意見交換をやった時はとりあえず町内会長から聞こうということで、内容的に何でもありではないが、問題点は何か、町内で問題があるかというふうに聞いたところ、各町内のことが出てきた。役員のみならず手がいない等そういう話になってしまい、その中から出た意見で自主的審議に挙げたというものはなかった。最初はよくわ

からなかったが、もうちょっと考えて進行すればよかったと今となっては思う。今回、意見交換をやるのであれば、こういうことでと話を進める等いろいろな方法はあると思う。

【富田座長】

そう思う。

【本城会長】

地域住民との意見交換で寄せられたものを我々が自主的に審議をして解決策を話し合うというのが我々地域協議会の役割であり、また、市の方針でもある。その前提に立てば、フリーに住民の意見を聞く機会を作る手法のひとつとして、若者ばかりでなく、いろいろな団体で活動されている方やいろいろな意見をもっている方にも広く呼びかけて、限定しない形で集まってもらう。どれくらい集まるかは別として。地域活動支援事業の提案団体から参加してもらうことも大事だと思う。そういう手法でいった方がよいのではないか。

【富田座長】

それが理想的な手法だと思うが、いろいろ意見は出てくる。高田城址公園、中心市街地、防災対策、人口高齢化、高田駅、雁木景観、空き家など出てくる。もう見えている。若者のことも含め、どう絞るかである。しかし、最初は絞ってはいけないという、本城会長が言うことはわかる。

【浦壁委員】

資料「高田区の活性化のための活動（地域活動支援事業の活性化に向けて）（案）」の*印2つは何か。

【富田座長】

1 1月までにテーマを絞ろう、2月までに改善策を出そうということ。

【浦壁委員】

承知した。

【富田座長】

このやり方も本城会長に言わせれば、地域協議会が決めつけているのではないか、という意見があるだろう。

【本城会長】

これでよいと思う。次回に絞り込んでテーマを決めて、解決策の提案は来年2月にやる、これでよいと思う。

【富田座長】

資料「高田区の活性化のための活動（地域活動支援事業の活性化に向けて）（案）」において、各テーマの活動の時間軸を短期、中期、長期と分けた。また、活動の種類を提案型なのか、アクション型なのかで分類するとともに、主体性についても分類した。地域活動支援事業の活性化が、地域協議会が主体となることができるのではないか。

【本城会長】

今日はそこまで出て、大体意思統一できればいいのではないか。

【浦壁委員】

資料「高田区の活性化のための活動（地域活動支援事業の活性化に向けて）（案）」の活動のプロセスに“①住民との意見交換を4ブロックに分ける”とあるが、テーマがない。

【富田座長】

これはプロセスであり、テーマは別である。

【浦壁委員】

テーマを決める前に4ブロックに分けるかどうかは、話し合わないといけない。

【富田座長】

4ブロックに分けることは決定ではない。例えば、地域活動支援事業であれば20プロジェクトある。そこと意見交換となると、やはりテーマが違ってくる。住民と意見交換する場合には4ブロックとする意見である。

【高野副会長】

その住民というのは誰なのか

【富田座長】

わからない。これは出た意見である。

【高野副会長】

漠然としている。具体的にどうやってやるのかを詰めていかないといけない。

【本城会長】

例えば市議会が住民説明会をやっている。どこの会場も市議は多く来るが、お客は

少ない。熱のあるところは結構いるが、高田あたりは少ない。或いは市議が動員かけないと来ない。それと同じで我々がやった場合、我々が誰か連れてこないと意見を聞くような状態にはならない。浦壁委員が心配しているのは、4ブロックくらいに分けるということになれば人手や日程的にも大変ということで、高田区全体で1回、住民との意見交換会をやって地域協議会に対する意見を聞く形で仕掛けていくことからやったらどうか。

【小川委員】

皆さんの意見を拝聴しているが、あまり大風呂敷を広げてもどうしようもなく、正直できない。市議は結構個別に訪問して、いろいろな市民の意見を吸い上げている。市の都市整備課がいろいろな事業を進めているが、やはり町中に住んでもらうという政策だ。それから「キナイヤ白書2021」が配られたが、こういう活動も結構ある。結論からいって、地域協議会としてできるもの、地域協議会ならではのものをすべきではないかと思う。我々が毎年審査する地域活動支援事業にはいろいろな団体の活動が申請されてくる。今年の場合をみると、点数ボーダーラインでかなり落とされてしまっている。未消化の予算が500万円からある。この辺をまず、考えてみるべきではないか。では、どういうふうを考えるか。点数ボーダーラインの見直しもあるかもしれない。それから、予算が余った場合の有効活用もあるかもしれない。或いは、活動団体のプレゼンテーションを行い、団体から本当の気持ちや思いを聞いてみる。そういう中から我々が地域協議会として地域活動支援事業を判断する基準をしっかりと作っていく。ただ自分の判断でただ点数をつけるのではなく、いろいろ提案団体のプレゼンテーションを聞いた中で、その思いをくみこむ。その辺は我々地域協議会としてできる一歩ではないかと思う。

【浦壁委員】

地域活動支援事業の活性化という項目が提示されている。これはこれで私達はテーマとしてとり上げればよいと思う。自由討議をして絞り込みをある程度していかないと11月に絞り込めない。本城会長も話されたが、全くそのとおりであり、意見交換会で住民を集めるのは至難の業である。こういうことに私達が費やす時間もなし、私はこれは必要ないと思う。これは私個人の意見なので、皆さんに諮ってもらい、住民との意見交換を4ブロックに分けてやるのが活動のプロセスとして一番

にきていいのかどうか、富田座長の方ではっきり決めていただきたいと思う。

【富田座長】

どうしてもやるというわけではない。テーマとプロセスを分けるとこうなる。例えば、この中から地域活動支援事業にテーマを絞り込む。小川副座長といろいろ議論した。地域協議会というのは、諮問事項、自主的審議事項、地域を元気にするために必要な提案事業、それから地域活動支援事業の4つであるが、自主的審議に地域を元気にするために必要な提案事業が入るので3つになる。今年は地域活動支援事業をとり上げたらどうか。具体的なことができると思う。ただ分からないのは、若者がこのプロジェクトにどれくらい入っているか。また、年齢でいくつ以下を若者とするか。

【高野副会長】

まずやるものを決めないといけない。実際に活動してる人達と話をしたいと思っている。ただ住民となると、何なのかとなる。きちんと今活動している人達と話すのが最初ではないか。

【本城会長】

資料「第二回会議資料」の表の“主体性”に○と△とある。これが一番大きいテーマではないか。主体性とは重要性のことか。

【富田座長】

いや、「地域協議会が活動する」ということ。

【本城会長】

主体性とは活動すること。地域活動支援事業の活性化、地域の宝を利用した活動、空き家の3つに絞り込む。

【富田座長】

この表は小川副座長とも相談し、私が作った。

【本城会長】

私もそれでよいと思う。

【富田座長】

皆がこれを見て「いや、これはこうなるのではないか」ということを言ってもらえれば。

【本城会長】

そういう絞り込み方で進めていくことでもしないと。間口広げてよね。

【富田座長】

空き家の利用は△とした。清里区が安心ノートをつくっているの。ただ、清里は800世帯、高田区の場合はすごい世帯数になるので、これをやれば相当パワーがかかるし、ちょっと現実的ではないのではということで△とした。

【小川副座長】

若者の意見を聞くことは簡単である。南部まちづくりセンターからも地域活動支援事業で「こういう活動が何月に行われている」と情報提供がされている。まず、それに皆行っているか。そこで話ができる。この前、私が言った「くらしのシルエット展」を戸野目で見してきたか。これは素晴らしい。まちの空き家を美術館にしようという構想まである。ああいう若者と話をして、いろいろな若者の意見がわかる。この「キナイヤ白書2021」で空き家を皆で直そうとある。私の家の近くのスイミーなんかそうである。そういうところへ行って若者と話してみしてほしい。若者が何を考えているか。頑張っている。或いは民泊のところなど、チャンスはいくらでもある。実際に活動していれば幾らでも若者の意見を聞ける。

【富田座長】

私も「くらしのシルエット展」に行った。若者、女性陣がいた。その方といろいろ話をした。NPOは高田区でどれくらいあるかは分からないが、上越市では70くらいある。

【小川副座長】

そこで何を絞り込むかということだが、資料「第二回会議資料」の表中、○が一番多いのが地域活動支援事業の活性化である。では、どういうことをすればよいのか。要は、若者を含めた活動団体が地域活動支援事業を提案してくる。本当の思いを皆で聞こうではないか。その上で点数づけしようではないか。そうすれば、点数ボーダーラインで落とされて悔しい思いをする団体も減るかもしれない。また、なぜ点数ボーダーラインがあるのか。点数ボーダーラインを見直してもいいのではないか。そういう議論を進めていった方が地域協議会らしい活動の一つになるのではないかと思う。

【富田座長】

松倉委員が先ほど、地域活動支援事業の活性化と地域協議会がどうリンク、関係す

るのかと言われた。それをちゃんと理論武装していく。

【松倉委員】

地域協議会全体として協議する問題ではないかと思った。せっかく分科会を2つに分けたのに。

【浦壁委員】

松倉委員が言うように、市の地域活動支援事業があって、私達は地域協議会全体としての審査基準によって採択を決定している。それを、不採択だったが一生懸命活動している云々という話はちょっと難しいと思う。

【富田座長】

これをテーマにやると本会議で説明する。そこでちゃんと説明できないと、それちょっとおかしいのではないかな。挙手で決めるのかどうかは会長に任せる。我々の方で11月に決定して、11月の全体会で説明し、そこで合意を得たら決定だと思う。

【本城会長】

分科会としてもそこだけをやるというのではなく、いろいろな意見が出てきたものについて、集約をしながらそれを全体会の中に、また意見、討議をするという形でもよいのではないかと思う。小川委員が言われたように我々の分科会としては高田区の活性化の問題で、それは地域活動支援事業などを通していろいろな団体との繋がりをどう作っていくのかというテーマが絞りこまれているわけだから、それでよいと思う。

【高野副会長】

報告事項でよいと思う。こういうこともあったので皆さんとまた話し合いたいとする。分科会として意見集約して報告する。具体的に云々というのは全体で話し合いすることであって、ここで話すことではない。決められない。

【富田座長】

正副会長が決めたこの分科会の開催方法（案）（令和3年度第4回高田区地域協議会の会議資料）には「テーマ設定後は、全体会にその旨を報告し」とあり、テーマ設定は分科会でやる。そして、「全体会でその旨を報告し、高田区地域協議会の自主的審議事項として提案し了承を得る」と書いてある。

【本城会長】

そう、第2分科会も何をやっているか分からない。だから向こうのまとまった意見も聞かなければいけない。我々の意見も知ってもらわなければならない。そこまで絞り込んでいけば、大体ではないか。それでよい。

【富田座長】

承知した。大体この方向で行こうということ。今日の要旨を1週間以内に出さないといけないので、また小川副座長と話す。各委員と個別に話す必要はないと思う。まだテーマは最終決定でなく、この方向で動いているだけである。

【本城会長】

11月1日の分科会に、この集約されたものを出してもらえればよいと思う。

【小池係長】

本日配布した宮崎委員からの「私見」も確認してもらえればと思う。

【富田座長】

資料「第二回会議資料」に關係事項を記載した。同資料の表の“主体性”は×とした。この資料でおかしなところがあれば言ってほしい。電話でもよい。

【本城会長】

分科会に入っていないメンバーが5、6人いる。全体会ではその6人も含めて説明していかなければいけない。だから、また何かいろいろな議論になってくるかもしれない。そういうことを頭に置いて進めていただきたい。

【富田座長】

全体会で駄目になる可能性もある。

閉会を宣言。

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 南部まちづくりセンター

TEL: 025-522-8831 (直通)

E-mail: nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。